

校長先生の初恋物語

第23話 なぞの転校生

月曜日の朝、5年2組の教室では、とっくん、足長君、きんに君の3人の周りに、たくさんの人達が集まっていた。土曜日に体験したあのふしぎな話を3人がしたんです。

「とにかく、その子はガブのあじとから消えたんだよ。」

みんなその話を聞いて、震え上がっていました。

8時になって、によろひげ先生が教室に来ました。

「おはようございます。」

とみんなが大きな声であいさつをして、そしてその時、とっくんはびっくりしました。足長君も、きんに君も、びっくりしていました。なんと、によろひげ先生は、ガブのすみかで消えてしまったあの子をつれていたんです。そして、によろひげ先生は言いました。

「今日から、このクラスに新しい友達です。」

転校生です。なんと、あのなぞの子が、とっくんのクラスに転校生としてやってきたんです。さらにおどろきなのは、によろひげ先生が黒板に書いた名前です。によろひげ先生は、黒板に「木村アマーラ」と書きました。外国からの転校生でしょうか。

によろひげ先生から、自己紹介をするように言われましたが、アマーラさんは、一言もしゃべりません。「日本語が、分からないのかなあ。」席は、一番後ろの、ダンプさんの横になりました。ダンプさんが、

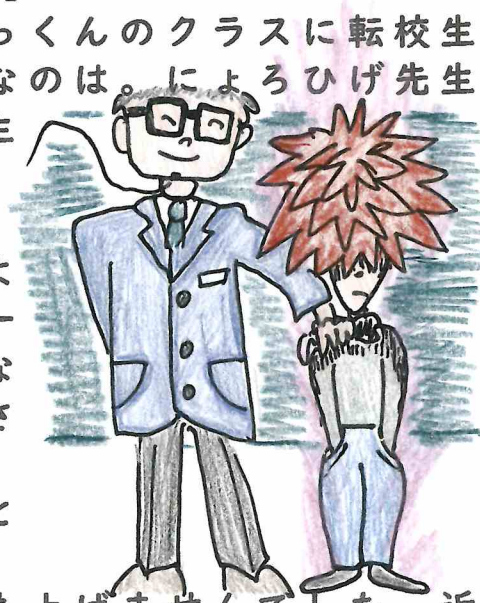
「アマーラさん、よろしくね。困ったことがあったら、何でも言ってね。」

と声をかけましたがまったく反応なし。顔も上げませんでした。近くの足長君が、

「土曜日、こづつみ山公園にいたよね。」

って声をかけてもいっさい反応なし。アマーラさんは、まったく声を出してくれませんでした。

休み時間にも、いろんな子が話しかけに行きました。でも、すべ



てムシ。アマーラさんは、その日、1回も声を出すことなく、家に帰っていきました。ただ1つ分かったことは、女の子ということだけでした。

翌日も、またその次の日も、アマーラさんは一言も声を出しませんでした。授業中もずっと下を向いていました。によろひげ先生も、あまりにも話ができないアマーラさんに、手をやいていました。みんなは、アマーラさんとどのように接していいのやら、困っていました。優しいよしこさんも、何度もアマーラさんのところに行きましたが、その優しいよしこさんのこともムシ。あまりにもムシされるため、クラスみんなは、何日かたって、アマーラさんに対して冷たくなっていきました。

アマーラさんは、あっという間に、クラスみんなからきらわれてしまいました。とっくんは、「もっとみんなと仲良くすればいいのに・・・」と思っていました。やがて、アマーラさんについての、変なうわさが広がってしまいました。それは、5年1組の男の子がもくげきしたということです。

「アマーラさんが、ガブと、話をしていた。」

そのうわさを聞いたときとっくんと、足長君と、きんに君は、顔を見合わせました。あのほらあなでのことが、思い出されたからです。やがて、アマーラさんが、ガブと仲良くしていたというもくげき情報が増えてきました。そして、とっくんも、こづつみ山公園で、見てしまいました。アマーラさんが、ガブと、楽しそうに走り回っているところ。アマーラさんが、ガブと話をしているところ。とっくんたちとはいっさい話をしないのに、ガブとは楽しそうに話をするアマーラさんのことが、とっくんは気になってきました。

「アマーラさんとは、どんな人なんだろう・・・。もしかして、宇宙から来た、宇宙人かも・・・。」

そんな時に、アマーラさんは、学校で、みんながびっくりするようなことをしたんです。マンモス小学校は、いろんな生き物を飼育しています。こい、かめ、にわとり、うさぎ。そして5年生が担当していたのは、くじゃくでした。アマーラさんに飼育当番が回ってきたとき、そのびっくりするようなできごとがおこりました。つづく



次回予告

きょうぼうなクジャ

